

取扱説明書

このたびは本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。
お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。
また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

本書に記載した ⚠ の表示のある注意事項や、機械に貼られた ⚠ の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり必ずお守りください。また、⚠ の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い上げの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した ⚠ の表示のある注意事項や、機械に貼られた ⚠ の表示のあるラベルでは、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

⚠ 危険	●その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
⚠ 警告	●その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
⚠ 注意	●その警告文に従わなかった場合、けが又は物的損害を負う恐れがあります。



ASB 株式会社 麻場

〒381-8530 長野県長野市北長池1443-2

☎026-244-1317 (代)

URL: <https://www.asaba-mfg.co.jp>

サービスと保証について

-目次-

- ◇ ⚠ 安全のために必ずお守りください ②
 - 作業の前に
 - 作業中に
 - 作業後と保管
- ◇仕様 ③
- ◇梱包部品一覧 ③
- ◇製品に貼付されたラベルとその取り扱い ④
- ◇各部の名称と組立 ⑤
- ◇使用前の準備 ⑤
- ◇使用方法 ⑥
 - ポンプハンドルのロック、解除のしかた
 - 作業の前に
 - 給油
 - タンクへの加圧
 - 予熱
 - 燃焼
 - 作業
 - 緊急時の消火方法
 - 消火
 - 炎に息継ぎ、生火が発生したら
- ◇使用後の手入れ、点検と保管 ⑪
 - ノズルの手入れ
 - フィルタの清掃
 - ピストン用Oリングの手入れ
 - 燃料ホースの点検
 - 保管
- ◇故障と対策 ⑬
- ◇サービスと保証について ⑭
- ◇保証書 ⑭

○お買い求め頂きました製品には万全を期しておりますが、万一不備な点がございましたら、お買い求めになった販売店または、弊社までご連絡ください。

○点検・修理等を依頼される前に
 サービスを依頼される前に、『故障と対策』の項をもう一度ご確認ください。
 それでも不具合または、ご不明な場合は、ご自分で修理なさらずに、お買い求めになった販売店または、弊社までご連絡ください。

○保証書について
 「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動および、その後の安全活動のために利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

シャトルファイヤー HSF-803 保証書				
正常状態における取り扱いによって、製造上の原因に基づく故障の場合には、無料で修理、調整をお約束します。 (お買上げ日及び、販売店名の記入無きものは無効です。)		※取扱上の不注意による故障、又は、当社以外で修理、改造が行われた場合は、保証対象になりません。 修理の場合は、販売店にお持ちください。		
お買上げ日	年 月 日	保証期間	お買上げより1カ年	販売店
氏 名				
住 所				
TEL				

株式会社 麻場

〒381-8530 長野県長野市北長池1443-2
 ☎ 026-244-1317 (代)
 URL: <https://www.asaba-mfg.co.jp>

故障と対策

☆故障・異常の見分け方と処置方法

原因	現象										処置方法
	(燃焼状態が変化しない)	炎が安定しない	炎が短くなる	(ガスが生ずる)	炎が赤い	着火しない	タンク内に圧力が	押し戻される	ポンプハンドルが	押し戻される	
タンク内に灯油がない		○	○			○					タンクに灯油を給油する
タンク内の圧力が低い	○		○			○					最適燃焼圧力まで加圧する
タンク内の圧力が高い				○							最適燃焼圧力まで減圧する
メインノズル、熱交換パイプの位置ズレ	○			○	○						販売店に連絡(修理)する
フィルタの目詰まり			○					○			フィルタの交換、又は、洗浄をする
予熱用ノズルの目詰まり								○			販売店に連絡(修理)する
メインノズルの目詰まり	○	○		○							メインノズルの洗浄、又は、交換をする
予熱不足				○	○						充分予熱する
灯油に水が混入		○				○					タンク内の灯油を入れ替える
熱交換パイプの損傷				○	○						販売店に連絡(修理)する
メインノズル接続部よりの灯油漏れ								○			接続部を締める
接続部よりの空気漏れ	○		○					○	○		接続部を締める
メインノズルの穴径拡大				○							メインノズルを交換する
バーナ用コックの故障	○	○	○					○			販売店に連絡(修理)する
ポンプの故障									○		販売店に連絡(修理)する
タンクの故障									○		販売店に連絡(修理)する
ピストン用Oリングが寿命									○		ピストンOリングを交換する
エア流入弁にゴミ等が付着									○		販売店に連絡(修理)する
灯油の変質						○					灯油を入れ替える
バーナが草木等の燃えた煙を吸い込む	○			○							風上に立つ

その他、不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

⚠安全のためにお必ずお守りください

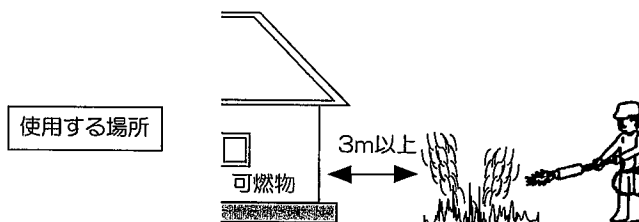
★作業の前に

⚠危険

・やけど、火災の原因となりますので、灯油以外の燃料（ガソリン、軽油等）は、絶対に使用しないでください。

⚠警告

・火気厳禁の場所、家屋、板べい、かやぶき屋根など燃えやすい物のそばでは、火災の原因になりますので、絶対に使用しないでください。



・強風の時等、火災発生の恐れがある場合は、使用しないでください。
 ・必ず屋外で、周りに人や動物がいないことを確かめてから使用してください。
 ・作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、磨耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。

⚠注意

・使用前に緊急消火用の水、及び消火器を準備してください。
 ・バーナ用コックは点火、燃焼中のとき以外は『止』にしてください。
 ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
 ・この製品を他人に貸与または、譲渡する場合は、必ず取扱説明書も添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

★作業中に

⚠警告

・使用中の給油は、やけど、火災の原因になりますので、絶対にしないでください。
 ・使用中又は、使用直後はやけどをしますので、絶対にバーナ部に触れないでください。また、バーナ部が熱いうちは、他人が誤って触れないように注意してください。
 ・使用中に炎が消えた時は、ただちにバーナ用コックを『止』にしてください。
 ・使用中に炎が息継ぎをしたり、生火になった時は、バーナ用コックを『止』にしてから、使用方法の『炎に息継ぎ、生火が発生したら』に従って、正常燃焼回復のための操作を行ってください。
 ・燃料ホースは、高温部に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないように注意して作業を行ってください。

⚠注意

・バーナを人や動物、家屋等に向けしないでください。
 ・バーナを上に向けて使用しないでください。
 ・バーナを風上に向けて使用しないでください。
 ・安全性を損なう恐れがありますので、転倒、落下させないでください。
 ・加圧した状態で長時間放置しないでください。

★作業後と保管

⚠ 注意

- 使用後は必ず、バーナ及び、燃やした物の消火を確認してください。
- タンクに圧力が残った状態でポンプ部を取り外すと、灯油が噴き出す等、事故の恐れがありますので、作業後及び給油の前には、安全弁のリングを引き残圧を抜いてください。
- 継手パイプ及び、燃料ホースをはずす場合は、必ず燃料コックを『開』にして、安全弁のリングを引き残圧を抜いた後、燃料コックを『閉』に行ってください。
- 長期間使用しない時は、タンクの灯油を完全に抜き取ってから10~15回ポンピングし、燃料コックを『開』にした後、バーナ用コックのレバーを『主』にしてバーナ内の灯油も抜いてください。
- 使用後は、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

仕 様

	バーナ部	タンク部	継手パイプ	ホース
重 量	約1.2kg	約1.9kg	約0.6kg	約0.3kg
寸 法	φ81×386mm	φ160×530mm	2本で780mm	1,500mm
液 容 量	6.5ℓ			
燃 料	白灯油			
発 熱 量	67.6kW(58,100kcal/h)			
燃料消費量	7ℓ/h			
火炎サイズ	80×550mm			
最大燃焼圧力	0.3MPa			
最小燃焼圧力	0.1MPa			
予 熱 圧 力	約0.08~0.12MPa			
最 適 燃 焼 圧 力	約0.1~0.2MPa			
連続燃焼時間	約45~90分(目安として55分)			

※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

梱包部品一覧

最初に梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし不具合な点がございましたら、製品名と共に買い求めの販売店までお知らせください。

品 名	数 量	備 考
タンク本体部一式	1	
バーナ部一式	1	バーナ用コック、連結ニップル(フィルタ内蔵)付
継手パイプA	1	
継手パイプB	1	連結ニップル付
燃料ホース	1	
灯油用ホースより戻し	1	PS1/4×G1/4 90°
肩掛ベルト	1	
ライター	1	バーナ点火用
T型レンチ	1	メインノズル交換用
掃除針	1	ノズル目詰まり清掃用
Oリング	1	ピストン用Oリング(NBR-2)
取扱説明書	1	本書(保証書付)

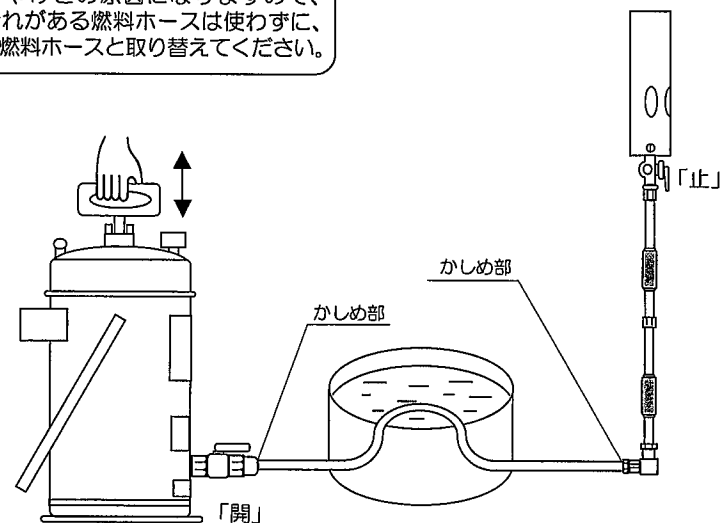
4. 燃料ホースの点検

- 燃料ホースに亀裂、摩耗、破損等があるとそこから灯油がもれて、やけど、火災の原因となります。使用する前に必ず点検をして、異常が無いことを確認してください。目に見えない亀裂、破損等は次の要領で確認してください。

- ①タンクとホースの中の灯油を全て抜きます。
- ②バーナ用コックを「止」にします。
- ③燃料コックを「開」にします。
- ④タンクを0.1MPa程度まで加圧します。
- ⑤燃料ホースを水につけます。
- ⑥燃料ホースから空気漏れがないか調べてください。
- ⑦燃料ホース両端のかしめ部は、石鹸水を筆等でぬり、空気漏れがないか調べてください。

⚠ 警告

- 火災、やけどの原因になりますので、空気漏れがある燃料ホースは使わずに、新しい燃料ホースと取り替えてください。



5. 保管

⚠ 注意

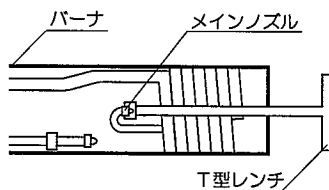
- 長期間使用しない時は、タンクの灯油を完全に抜き取ってから10~15回ポンピングし、燃料コックを『開』にした後、バーナ用コックのレバーを『主』にして、バーナ内の灯油も抜いてください。
- 安全弁のリングを引き、タンクの残圧を抜いてください。
- 使用後は、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子どもの手の届かない場所に保管してください。

※保管中にタンクに水が入らない様、充分注意してください。

使用後の手入れ・点検と保管

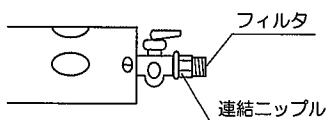
1. ノズルの手入れ

- ①右図のように、付属のT型レンチを使ってメインノズルを取り外します。
- ②取り外したメインノズルを、付属の掃除針で掃除してください。



2. フィルタの清掃

- 灯油に混入したゴミを取り除き、ノズルの目詰まりを防止するためのフィルタが、バーナ用コック側の連結ニップルに内蔵されています。このニップルをスパナ等で取り外し、きれいな灯油で洗浄してください。



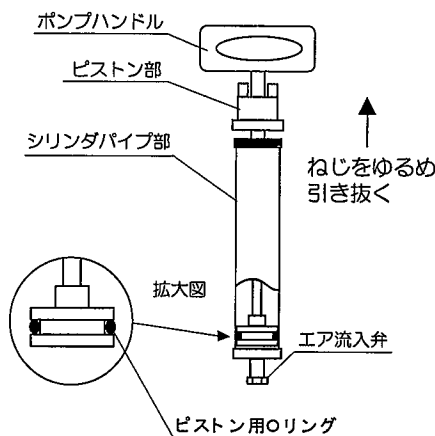
⚠ 注意

- 継手パイプ及び、燃料ホースをはずす場合は、必ず燃料コックが「開」の状態、安全弁のリングを引き、残圧を抜いてから、燃料コックを「止」にして行ってください。

3. ピストン用オリングの手入れ

- ポンピング時に、ポンプハンドルの動きが渋くなったり加圧しない場合は、次の要領でピストン部をシリンダパイプ部より抜き出して、ピストン用オリングに機械油の注油、または付属のオリングと交換を行ってください。

- ①ポンプ部をタンクから取り外し、片手でシリンダパイプ部を持ち、もう一方の手でポンプハンドルを握り、左に数回まわして、ピストン部をシリンダパイプ部からはずしてください。
- ②ピストン部を引き抜き、ピストン用オリング部にゴミや金属粉が付いている時は、灯油できれいに洗い流してください。
- ③ピストン用オリングに注油、又は、交換を行ってください。
 - 動きが渋い場合：注油
 - 加圧しない場合：交換及び注油
- ④シリンダパイプ部を、ピストン部の奥まで押し込むように回しながら入れてください。



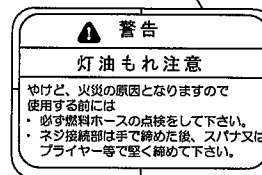
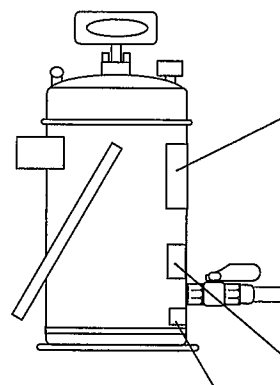
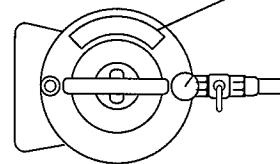
注)ピストン部とシリンダパイプ部には、一定の遊び(すき間)があるため、完全に締まりませんので注意してください。

※注油、交換の際に故障の原因となりますので、シリンダパイプにゴミ、異物等が付着、混入しないよう注意してください。

製品に貼付されたラベルとその取り扱い

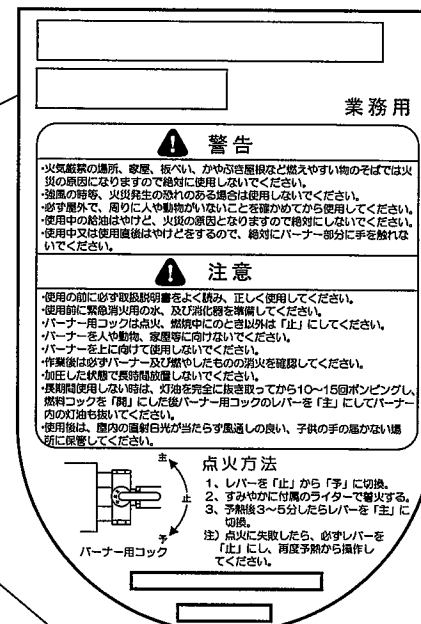


品番：689099050

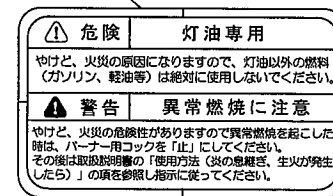


品番：689045400

- ラベルはいつもきれいにし、傷つけないようにしてください。
- ラベルが汚損したり、はがれた時は、お買い求めの販売店にラベルの品番と共に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る時は、貼る面の汚れをふき取り、乾いた状態にして元の位置に貼ってください。

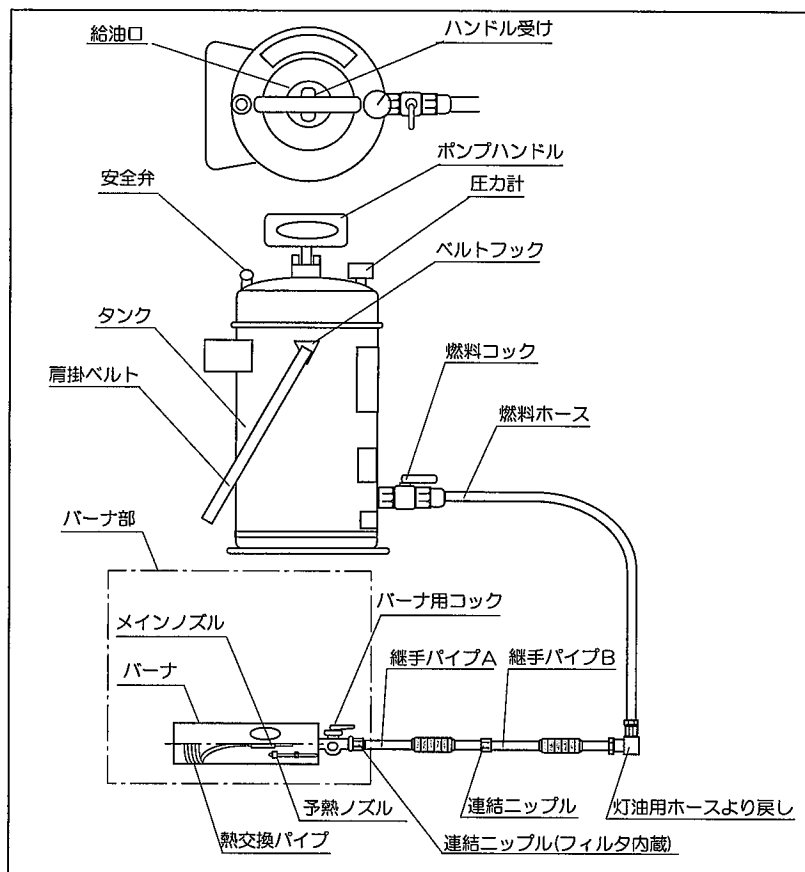


品番：689045390



品番：689099060

各部の名称と組立



使用前の準備

- 『各部の名称と組立』を参照して、下記の順番に組み立ててください。
- ① 継手パイプBに灯油用ホースより戻しを組み付け、その先に燃料ホースを接続します。
 - ② 継手パイプBに継手パイプAを組み付け、その先にバーナ部を接続します。
 - ③ 燃料ホースを、タンクの燃料コックに接続します。
 - ④ 肩掛ベルトを、タンクのベルトフックに接続します。

⚠ 注意

- ①～③の組立は、接続部パッキンの脱落がないことを確認しながら行ってください。
- ネジ接続部は手で締めした後、スパナ又はプライヤ等で強く締めてください。

※接続ニップルが付いている方が継手パイプBです。

10. 炎に息継ぎ、生火が発生したら

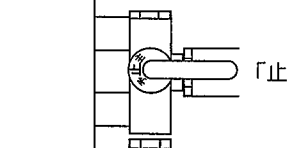
作業中に環境及びタンク圧力等の変化により、灯油のガス化が不安定になって、炎に息継ぎ、生火が発生することがあります。

息継ぎ：赤い炎が周期的に発生する。

生火：赤い大きな炎（1m～1.5m）が連続的に発生する。

⚠ 警告

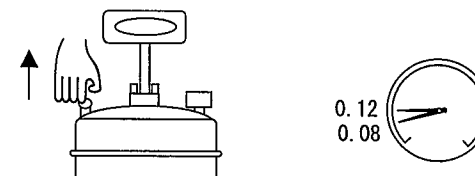
- 息継ぎ、生火が発生したら、ただちにバーナ用コックを「止」にしてください。



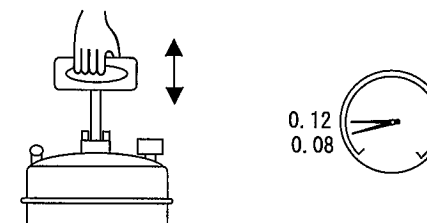
バーナ用コックを「止」にして一旦消火し、再度予熱からやり直します。

- ① 圧力計の針が、0.08～0.12MPaの範囲に納まるようにします。

圧力が高い場合・・・安全弁のリングを引いて調節



圧力が低い場合・・・ゆっくり加圧しながら調節



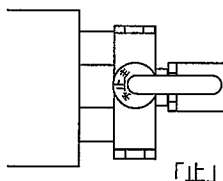
- ② ポンプハンドルをロックしてください。

- ③ 「5. 予熱」からやり直してください。

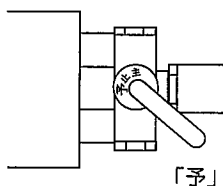
※正常な炎に戻らない時は消火し、バーナ部が充分冷えてから『故障と対策』を参照し、処置方法に従ってください。

9. 消火

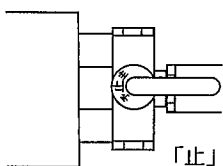
①バーナ用コックを「止」にしてください。徐々に火力が弱くなり、残火（チョロチョロ燃える火）程度になったら、すばやく残火を吹き消してください。



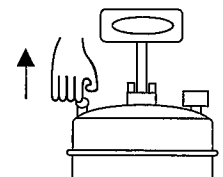
②炎が消えたらバーナ用コックを「予」にして、予熱用ノズルから灯油を2～3秒間出し、予熱用ノズルを洗浄してください。（点火はしない。）



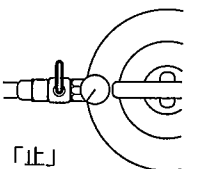
③バーナ用コックを「止」にしてください。



④安全弁のリングを引き、タンク内の圧力を抜いてください。



⑤燃料コックを「止」にしてください。



⚠ 警告

- 消火後、しばらくはバーナ部が熱くなっていますので、絶対に触れないでください。また、バーナ部が熱いうちは、他人が誤って触れない様に注意してください。

⚠ 注意

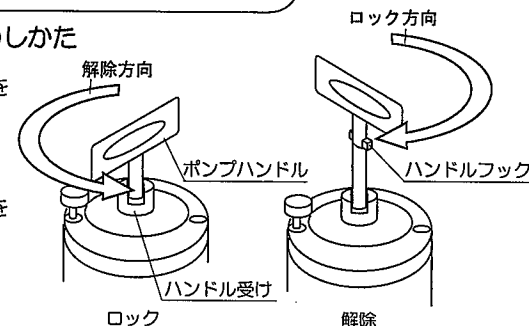
- 作業後は、必ずバーナ及び燃やした物の消火を確認してください。

※本機の予熱用ノズルは、灯油を迅速に気化し、かつ寒冷地での着火を良くするために、微粒子オイルノズルを使用しています。このため、使用方法を間違えると、ノズルが目詰まりをすることがあります。これは、ノズルの内側からの目詰まりではなく、表面に付着したカーボン（すす）によるものです。このカーボンを取り除くために、②の手順が有効ですので、必ず実施してください。

使用方法

1. ポンプハンドルのロック、解除のしかた

- ①ロック解除
右図「ロック」状態で、ポンプハンドルを押しながら左に90度回し、ハンドルフックをハンドル受けから引き上げてください。
- ②解除ロック
右図「解除」の状態、ハンドルフックをハンドル受けの切り込みに合わせて押し込み、さらに押しながら右に90度回し、ロックしてください。



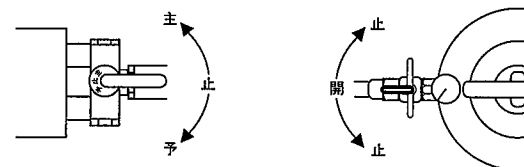
2. 作業の前に

⚠ 警告

- 作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、磨耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。

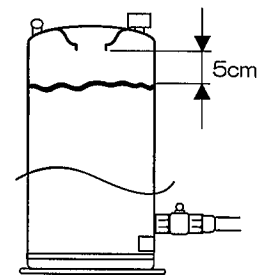
⚠ 注意

- 作業前に緊急消火用の水、及び消火器をご用意ください。
- 燃料コック及び、バーナ用コックを、「止」の位置にしてください。



3. 給油

- ①タンクの上部をきれいにふきとり、ポンプハンドルをロック状態で左に回し、ポンプ部を取り外します。
- ②右図の様に、タンク給油口より5cm程度のところまで給油してください。
- ③給油が終わり次第、ポンプ部をタンクに装着し、ポンプハンドルを右に回してしっかり締め付けます。
- ④灯油でぬれたところは布等でふきとってください。



⚠ 危険

- やけど、火災の原因となりますので、燃料は灯油以外のもの（ガソリン、軽油等）は、絶対に使用しないでください。

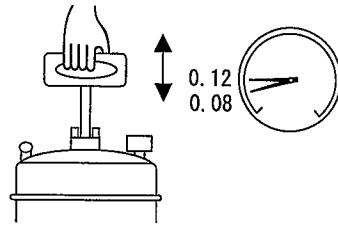
⚠ 注意

- タンクに圧力が残った状態でポンプ部を取り外すと、灯油が噴き出す等、事故の恐れがありますので、給油の前には安全弁のリングを引き、残圧を抜いてください。
- 溢れた灯油や、こぼれた灯油は、やけど、火災の原因となりますので、布等でよく拭き取ってから使用してください。

※タンクから取り外したポンプ部は、絶対にゴミの付く場所に置かないでください。ゴミが付いたままタンクに装着すると、灯油にゴミが混ざり、故障原因となります。ポンプにゴミが付いた時は、灯油できれいに洗い流してから使用してください。

4. タンクへの加圧

- ①ポンプハンドルのロックを解除し、上下にポンピングして加圧します。
- ②圧力計の針が、0.08~0.12MPaの範囲に納まるように加圧してください。
- ③加圧し終わったら、ポンプハンドルをロックしてください。

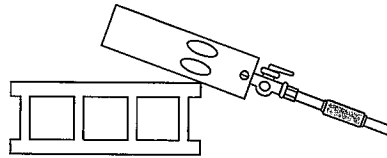


5. 予熱

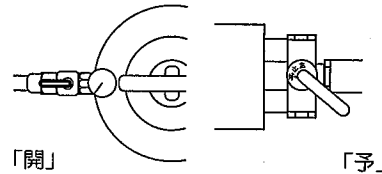
- ①バーナの先端を、ブロックやレンガ等の上のせませます。

⚠ 注意
 ・バーナの先端は風下に向けてください。

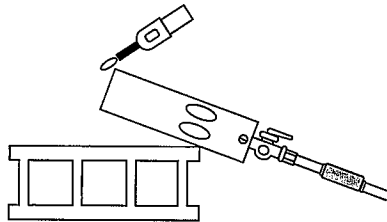
※バーナの先端をやや上に向けると、予熱時間が少なくて済みます。



- ②燃料コックを「開」、バーナ用コックを「予」にします。

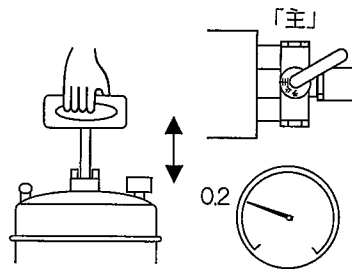


- ③すみやかに付属ライターで点火してください。



6. 燃焼

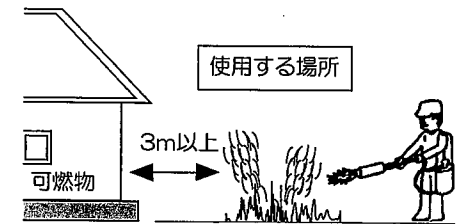
- ①予熱開始3~5分後、バーナ用コックを「主」にしてください
- ②生火（赤い大きな炎1m~1.5m）が連続的に出ないことを確認後、ゆっくり0.2MPaまで加圧してください。
- ③加圧し終わったら、ポンプハンドルをロックしてください。



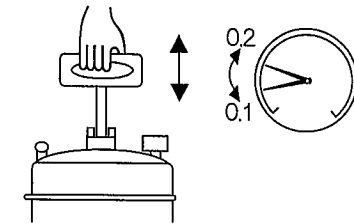
※生火が発生したときは、予熱不足ですので、再度、予熱からやり直してください。
 ※予熱の時間は、外気温度により多少異なります。
 ※着火し正常に燃焼すると、ゴーと大きな音がしますが、異常ではありません。

7. 作業

- ①タンクを肩に掛け、継手パイプを両手で持ち作業してください。



- ②圧力が低下し火力が弱くなった時は、圧力が0.1~0.2MPaで安定に燃焼するまで、再度ゆっくりと加圧してください。



⚠ 警告

- ・火気厳禁の場所、家屋、板べい、かやぶき屋根など燃えやすい物のそばでは、火災の原因になりますので、絶対に使用しないでください。
- ・使用中の給油は、やけど、火災の原因となりますので、絶対にしないでください。
- ・使用中又は、使用直後はやけどをしますので、絶対にバーナ部に触れないでください。
- ・使用中に炎が消えた時は、ただちにバーナ用コックを止めてください。
- ・使用中に炎が息継ぎをしたり、生火になった時は、バーナ用コックを「止」にしてから、使用方法の「炎に息継ぎ、生火が発生したら」に従って、正常燃焼回復のための操作を行ってください。
- ・燃料ホースは、高温部に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。

⚠ 注意

- ・バーナを人や動物、家屋等に向けないでください。
- ・バーナを上に向けて使用しないでください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、転倒、落下させないでください。
- ・加圧した状態で長時間放置しないでください。

※炎が消える原因としては、灯油に水が混入している可能性があります。タンク内の灯油を新しいものに交換してください。交換の際は、タンク内に水が残らない様、注意してください。また、保管時にもタンク内に水が入らない様、充分注意してください。

8. 緊急時の消火方法

- ・バケツ等に用意した水にバーナを入れ、消火してください。
- ・燃料コック及びバーナコックを「止」にしてください。

※緊急消火したバーナをご使用の際は、異常のないことを充分確認の上ご使用ください。
 ※緊急時以外は、通常の消火法に従ってください。